

バロー20期連続増収 3月期、積極出店が奏功

バローが8日発表した2015年3月期連結決算は、既存店売上高は主力のスーパーマーケット(SM)、ホームセンター(HC)とも消費増税の影響で減少したが、ドラッグストア(DS)は堅調に伸ばし、売上高に相当する営業収益は20期連続の増収を確保、過去最高となった。純利益も6期連続の増益となり過去最高だった。

SMの既存店売上高は前期比2・4%減、HCは2・9%減となったが、DSは2・2%増。さらにDSは過去最多の30店舗の新設も寄与し、同事業の売上高は800億円を突破した。SM事業では、プライベートブランド(PB)商品で素材や製法を厳選した「Vプレミアム」が好調に推移。DS事業は食品の販売強化や調剤事業の拡大

が増収に寄与した。損益面では、食品ディスプレイ・タチャが経常利益が60・9%増となり、連結経常利益の増益に寄与。純利益は経常利益増に加え、アクトスで繰延税金資産の計上による法人税等調整額が減少

し、増益となった。16年3月期は、SM13店舗、DS32店舗など計53店舗と積極的な出店を継続する一方、SM既存店の収益性改善にも注力し、増収増益を目指す。